

令和6年度福島県立美術館運営協議会議事録

- 1 開催日時 令和7年2月27日（木）14：00～15：50
- 2 開催場所 県立美術館2階会議室
- 3 委員数 10名
- 4 出席委員数 10名
- 5 議 題

（1）令和6年度事業の概要について

- ア 令和6年度事業の状況について
- イ 観覧者数等の状況について
- ウ 施設・設備等の状況について
- エ 福島県立美術館運営計画指標の達成状況について

（2）令和7年度事業計画（案）の概要について

6 議 事

○福島県立美術館長挨拶

委員の皆様には、日頃から当館の運営に多大なる御支援・御協力をいただき改めて御礼申し上げます。さて、当館は今年度開館から40周年を迎えた。1984年7月に、美術館設立を願う県民の熱い思いに応え、市のシンボルと親しまれる信夫山の麓のこの地に開館してから、これまで多彩な企画展の開催、収蔵作品の充実、活発な調査研究に基づく知識や情報の提供に努めてきた。今年度は、開館40周年記念展として、本県出身・ゆかりのある美術家に焦点をあてた「福島的美術家たち2024」、美術館の40年の歩みを振り返り、開館以来、充実してきたコレクションを紹介する「みんなの福島県立美術館」を開催したほか、美人画やポップアート、絵本などバラエティに富んだテーマで、展覧会を企画してきた。また、令和7年度は、幅広い層から人気があるスタジオジブリ作品の魅力を伝える展示やオランダのクレラー・ミュラー美術館が所蔵する珠玉のゴッホ・コレクションの展示など、大きな話題となる展覧会が開催予定である。今後も、多くの県民の皆さまに喜んでいただける活動を続けていくので、今後とも、御支援・御協力をお願いしたい。本日の運営協議会では、令和6年度の事業概要や令和7年度の事業計画などについて説明していくので、忌憚のないご意見を頂戴したい。

○出席委員及び事務局等出席職員の紹介

○会長、副会長の選任

令和7年1月1日付けで委員が改選されたので、福島県立美術館運営協議会条例第4条第1項の規定に基づき、委員の互選により全員一致で会長に鈴木淳一委員を、副会長に田村奈保子委員を選任した。

会長に選任された鈴木委員が挨拶の後、議長として議事を進行した。

(1) 令和6年度事業の概要について

令和6年度事業の概要について、事務局が資料に基づき説明を行った。

《質疑応答》

【笠原委員】協力会等からの寄贈が多いのは大変素晴らしいが、寄贈だけではかなり偏った収集になる。県立美術館への寄贈は多いと思うが、厳選して購入をしていかないと「これは」と思う作品を収集していくことはできないことが経験上、言えることである。収集予算を確保し、寄贈と購入を進めることが美術館として成功していくために必要である。

【副館長心得】笠原委員の御指摘のとおり購入を進めることがバランスの良い作品収集になるが、収蔵庫や予算の制約もあることから、寄贈を受けつつ購入も計画的に進めてまいりたい。

【笠原委員】地方の県立美術館の問題として予算が縮小している状況で海外の方に目が向いていない。日本の状況と海外の状況を切り離して見られないため海外研修が必要だが、個人の努力では限界があることから研修制度が必要である。

また、会議のペーパーレス化が必要なのではないか。現在の職場でも電子決裁等が進んでいるが便利である。

さらに、在宅制度を進めると良いのではないか。仕事によっては家で進めた方が良い場合もある。特に子育て・介護世帯の職員には非常に効果的ではないかと進めてほしい。

【館長】海外研修については、若手職員も多く海外に行かせたい。来年度はゴッホ展もあることから文化庁の助成制度も活用しながら積極的に進めていき

たい。

ペーパーレス化については、本庁では進んでいるが、タブレットなど設備等の面もあり出先は遅れている状況である。なお、今後は当館に Wi-Fi が整備されることから、電子化が進んでいくものと思われる。

在宅勤務については、コロナ禍以降進みつつあり、在宅でのオンラインや集合研修など、業務等の状況に応じて対応している。

【大槻委員】 報告書（※福島県立美術館東日本大震災報告書）について伺いたい。

現在、中学校の美術の授業で震災についての内容を教えようとしているが、今回いただいた報告書を授業等で活用しても良いか。

【副館長心得】 この報告書は全国の図書館等にも配布を予定しており、ぜひ活用していただきたい。

【齋藤委員】 大規模な展覧会の時の駐車場について、敷地内の駐車場を拡大する予定はないのか。あと、収蔵庫が狭くて作品が入らなくなっているようだが増設の計画はないのか。

【館 長】 駐車場については、現在開催中の「かがくいひろしの世界展」で満車状態が長く続いていることから、来年度開催の「金曜ロードショーとジブリ展」や「大ゴッホ展」においては、今回以上の来場者が見込まれたため、実行委員会のメンバーと対策を検討しているところである。

芝生の部分の駐車場化については、当館は福島市の緑地としての公園機能も併せ持ち、公園として楽しむために来られる方も多くいることから、駐車場化することは難しいと考える。なお、冬は芝が枯れていて硬い状態となることから、状況に応じて芝生を駐車場として短期間活用することも検討している。

また、自動車の利用だけではなく飯坂電車等もあるため、公共交通機関の利用を来館者に周知していきたい。

収蔵庫については、全国的な問題であり多大な費用も伴うことから、本庁とも情報を共有しており、引き続き、検討を進めてまいりたい。

【塩塚委員】 企画展に関する人員と予算について、変わらないのか、増えているのか、減っているのか。

【館 長】 事業規模に応じて人員は配置している。来年度は大規模展が控えてお

り、学芸員を増員したところである。

予算については、展覧会の開催内容によって大きく影響される。

【塩塚委員】学芸員はどこか別の部署にいる職員が美術館に異動になったりするの
か。人員のプールはあるのか。

【館長】学芸員は美術の専門家であり、当館のみの人員配置となる。人員のプ
ールはない。採用の段階で当館に配属され育成していくこととなる。

【田村委員】今回の「かがくいひろしの世界展」の盛況の要因は何か。

【副館長心得】子育て中の親子が安心して来館できたこと、絵本の人気が高かった
こと、かがくいさんの人間性の掘り下げが展覧会として良くできており、子
供だけでなく大人も楽しめたこと、かがくいさんの障害者教育の内容がよく
わかる展示となっていることなどが要因と考える。口コミもあるが、SNS
やNHKなどでも好意的に取り上げてもらい、県内だけでなく県外からも多
数の来場者があった。

【田村委員】学校連携事業について、意見として申し上げる。かなりの実績となっ
ており素晴らしいが、職員の過重な負担とならないようにしていただきたい。

展示の在り方について、寄贈作品は関連の作品全点があるのか。全体的な
展示があると良い。

【副館長心得】関連の作品全点があるとは限らない。展示においては、展示室の広
さに限りがあることから、選んで展示している。特集展示などでは一連の作
品を展示している。

(2) 令和7年度事業計画（案）の概要について

令和7年度事業計画（案）の概要について、事務局が資料に基づき説明を行っ
た。

《質疑応答》

【舟木委員】トークフリーデーは、友の会とも連携し、様々な方に楽しんでもらえ
るよう実施しており、とても良い取り組みだと考える。

【大槻委員】大型の企画展の来館者について、予定人数はどの程度か。

【館長】まだ動いている部分がありこれからであるが、10万人は超えるもの
と思われる。

【鈴木会長】 大型の企画展の実施において、駐車場以外で何か課題はあるか。

【館 長】 外観からはあまり分からないが、40年以上経っているため、施設、設備の老朽化が課題と考えている。特に、来年度は世界的な名画・ゴッホの作品を預かる美術館として重い責任を感じている。空調やセキュリティーなどの安全対策についても十分に対応していく必要があると考えている。現在、ハード・ソフト両面から関係機関等と連携しながら安全対策を進めている。

【岡部委員】 トークフリーデーやコーヒーイベントなど、多様なニーズに細やかに対応しており良いと思う。イベント中は来場者が多く、出入りも多くなると思うが、今後大型企画展の際に、そういう方でも休憩等ができるスペースを設けることが必要ではないか。色々なニーズに利用できる歓談エリアなどがあっても良いのではないか。

「ふくしまプレデスティネーションキャンペーン」(※ふくしまプレDC)に絡めて、インバウンド向けのサポートを検討してもよいのではないか。大型企画展に向けて海外からの来館者への多言語化は検討しているか。

【館 長】 休憩スペースについては、スペースに限りはあるが、快適に過ごしていただけるよう工夫してまいりたい。

多言語化については、現在整備している Wi-Fi によりスマホのアプリで翻訳機能もあるため、そういうものを活用し、インバウンドのお客様を迎えるなど対応してまいりたい。4月からの「ふくしまプレDC」も踏まえ、県内は勿論、海外も含めて日本中から来県されるので、福島県をPRしないといけない。当館は敷地も広く、テント等の出店も検討しながら県物産を関係機関・団体とPRしていく。

【塩塚委員】 来年度事業について、大型企画展のほかに福島アートアニュアルのような事業も大事だと思うが、こういう企画はどのような経緯で立案されるのか。

【副館長心得】 企画は学芸員が中心となり企画・立案するが、各世代の学芸員がいるので、若い世代の意見も大事にしながら課内で検討を重ね、館長と協議のうえ決めている。意欲的な企画を積極的に採用している。

【塩塚委員】 だいたい何年先くらいを念頭に準備を進めているのか。

【副館長心得】長いものだとは5年くらい、通常は2年くらい先を見ている。

【塩塚委員】数値目標について、ホームページアクセス件数はあまり意味が無いようなので見直しても良いのではないかな。

【館長】数値目標については福島県総合計画のもとに作成されているが、状況に応じて柔軟な対応も考えていきたい。現在は情報発信のあり方も多様化しており、HPだけでなくSNSも発達しており、そちらも含めて活用していきたい。昨年実施した「コーヒーイベント」では2日間で5000人が来場したが、チラシ、新聞広告等は活用しなかったもので、改めてSNSの力を感じたところである。

【岡部委員】県の文化振興計画でも指標が簡単に変えられないところはあるが、文化は指標では測れないところがある。目に見えない、数字に表れないところが重要ではないかな。

【館長】事業を評価する上で、定量的な数字で表す評価もあるし、定性的な評価もあると思う。数字だけで表せないようなメリット、その効果や実績を丁寧に訴えていくしかないと思う。この運営協議会での各委員からの御意見も評価の一つと考える。様々な切り口からの評価を頂き、県民の皆様に御理解頂けるような形で、よりよい事業実施に繋げてまいりたい。

【笠原委員】定量的なものはとても危険だと思う。美術館の評価は来場者の数では測れない。オリジナルの企画展の実施回数なども目標としてはどうか。人が来なくても良い企画展はある。

【館長】数値目標は達成状況がわかりやすいことから多くの指標において採用されているところである。定性的な部分をどのように周知していくか、多様な企画展の重要性や必要性などの広報に力を入れてまいりたい。

【齋藤委員】令和7年の県展（※福島県総合美術展覧会）をパルセいいざかで実施する。県展運営委員会で委員から「温泉の観光協会や市と連携して観光面にも生かせたらよいのではないかな」という意見が出た。例えば、温泉のクーポン券など。ゴッホ展など大規模展では、県外から来県される方々に対して、県内を観光してもらえよう、観光や産業など横の連携をとると良いのではないかな。

【館長】横の連携は重要と考えており、県内の施設や団体等への広報活動を実

施しているところである。先日も市内の観光協会を訪問し、美術館事業について周知等協力を依頼した。美術館としてできることを今後も継続して対応していきたい。

【田村委員】40周年記念展の「みんなの福島県立美術館展」は、学生を連れて鑑賞したがとても素晴らしかった。こうした企画展の実施も重要である。

【館長】お褒めの言葉をいただきありがたい。担当学芸員に伝えておく。

【議長】すべての議題について承認してよいか、お諮りする。

【委員一同】異議なし。

【議長】すべての議題を承認する。本日委員の皆様からいただいた貴重な意見が、館の運営に適切に反映されることを期待して、議事を終了する。

【館長】：長時間にわたる御審議、感謝申し上げます。委員の皆様からいただいた意見を今後の運営に生かしてまいりたい。

以上をもって、令和6年度福島県立美術館運営協議会を閉会した。